

サステナビリティ重点課題 進捗・実績（2025年9月現在）

※ 会社略称表記
SH:サッポロホールディングス、SB:サッポロビール、PS:ポッカサッポロ、
SRE:サッポロ不動産開発、SLN:サッポロライオン、SGF:サッポログループ食品、
SBL:スリーマン、SUSA:サッポロUSA、SVL:サッポロベトナム、PK:ポッカ、YSM:ヤスマ、
FBS:フォーモストブルーシール

※SBT認定済

区分	最注力	重点課題	具体的取り組み	指標	目標設定会社	目標年	目標	2025年上期実績	
環境との調和	●	脱炭素社会の実現	・自社拠点・サプライチェーンにおける温室効果ガス排出削減	・温室効果ガス排出削減量	サッポログループ サッポログループ (SB,SBL,PS)	2030年	・スコープ1,2 温室効果ガス排出量を2022年比で42%削減	【2024年実績】 ・167.7千t（2022年比88.6% 11.4%削減）	
							・スコープ3 温室効果ガス排出量を2022年比で25%削減	【2024年実績】 ・979.3千t（2022年比86.0% 14.0%削減）	
							・FLAGスコープ1,3 温室効果ガス排出量を2022年比で31%削減	【2024年実績】 ・53.1千t（2022年比74.1% 25.9%削減）	
		・循環型社会に対応した容器包装の実現 ・プラ資源のリデュース・リサイクル	・PETボトル製品 再生材使用率	PS	2030年	・国内販売PET製品 再生材利用率50%	【2024年実績】 10.8%		
			・広告品類プラスチック削減量	SB	2030年	・化石燃料由来のワンウェイプラスチック製広告品類 国内原則廃止	【2024年実績】 集計中		
		・廃棄物・食品ロス削減	・食品再生化等実施率	SLN		・食品リサイクル法に定める基準実施率（＋1%/年） ※2023年度までに50%達成済	【2024年】 2024年度（2024.4～2025.3）食品再生化等実施率51.6%		
			・生産拠点における廃棄物再資源化率	SB,PS		・国内生産拠点における廃棄物再資源化率100%	【2024年度（2024.4～2025.3）実績】 100%		
		・水資源の保全	・用水原単位	SVL	2030年	・ロンアン工場において、 →2030年まで用水原単位を2023年比10%削減 →洪水などの水リスクについて、適切に地域とコミュニケーションを図り、影響を最小化させるよう努める	【2024年実績】 用水原単位：4.61m3/kL （2023年比4%減）		
			・水リスク管理	SB,SBL,SAS,SVL,PS PK,YSM		・1回/3年以内による全生産拠点等の水リスクを調査 ・水の効率的使用	【2024年実績】 ・アキダクトによる全生産拠点等の水リスク指標確認（前年から変化無し）		
	●	自然共生社会の実現	・気候変動の緩和策・自然への影響の低減策	・大麦/麦芽の単位量あたりの窒素肥料の投入量、施肥最適化コミュニケーション	SB	2030年	・大麦/麦芽の単位量あたりの窒素肥料の投入量把握および施肥最適化コミュニケーション※2030年までに実施割合を100%にする。 ※ 当社のFLAG Scope1,3目標の共有、窒素系化学肥料や有機肥料の活用について、現地訪問などによる状況とアライン	*2025年より設定	
・気候変動に対応した原料育種、自然と共生する拠点、まちづくり			・気候変動対応原料育種の進捗	SB	2030年	・気候変動対応可能な特性を持つ大麦・ホップの国内品種登録出願	【2024年実績】 （大麦） 赤かび病に強い可能性のある大麦品種候補を、現在公的試験中。 （ホップ） うどんこ病抵抗性品種候補の登録用調査中		
社会との共栄	●	地域との共栄	・地域の価値向上 ・自社リソースを活用した地域課題解決	・エリアブランド価値向上に資する持続可能なまちづくりの進捗	SRE		・保有物件価値向上と賑わいの創出 ・物件エリアのステークホルダーとのコミュニティ形成・強化・拡大 ・誰にでも優しい施設づくり	【2025年上期実績】 コミュニティ形成に資するイベント実施件数11件（恵比寿：7件、札幌：4件）	
				・「地域創生事業」の進捗	SB		・自治体と連携した持続可能な地域創りとして、食材商談会における地域の食材サプライヤーと企業のマッチング等を実施 ・商談会における自治体、サプライヤー、バイヤー満足度75.0%以上	【2025年上期実績】 ・19自治体24案件受託 ・取組み継続中	
				・日本のレモン生産の環境構築の進捗	PS		◆長期 ・日本のレモン栽培の豊かな土地と恵みを、未来の人々と地域に受け継ぐ ◆短期 ・毎年最低でも農地の最小単位である2,000㎡を増やす ・自社だけでなくパートナーとともに、栽培耕地の拡大 ・後継不在の農地引き継ぎ、耕作放棄地の再生等の実施	【2024年実績】 ・耕作放棄地の整備（2,000㎡）と新規就農者への引き渡し ・新たな農家との契約化	
				・食品飲料事業に関する地域における学習プログラム（食育、出前授業、工場見学等）の実施件数	PS,SGF	2030年	・2021年比で10倍（400件規模）	【2024年度実績】 302件(2021年比で8.2倍)	
		健康価値の提供	・事業を通じた健康価値の提供	「ポッカレモン」ブランド集計【年間購入率（％）・年間購入数量（購入者あたりの本数）】	PS	2030年	・レモンが持つ健康機能の発信や用途・シーンの提案を通じて、レモンの総需要を拡大することで人々のWell-Beingに貢献する	【2024年度実績】 ①年間購入率：14.76% ②年間購入数量：1.90 （購入者あたりの本数）	
				・お客様の健康に焦点を当てた商品の展開状況	PK	2030年	・シンガポールとマレーシアで販売される商品に含まれる砂糖量を、平均値が4.5%以下になるように削減する（ポッカブランド製品のみ）	*2025年より設定	
		●	責任ある飲酒の推進	・適正飲酒の啓発	・健康価値提供に資する保有物件の認証取得状況	SRE		・健康価値提供に資する保有物件の認証取得	【2025年上期実績】 恵比寿ガーデンプレイスタワーにて「DBJ Green Building認証」 最高位★5取得
					・純アルコール量のラベル表示進捗	SB	2025年	・国産・国内販売の缶入りアルコール飲料、微アルコール飲料容器へ1本当たりの純アルコール量（g）を表示実施率100%	【2025年上期実績】 当該容器への1本当たりの純アルコール量（g）表示実施率100%
					・e-learning等による適正飲酒に関する啓発の社員受講率	SB,SLN		・国内全従業員へのe-learning等による啓発（1回／年以上）100%参加	【2025年上期実績】 下期実施予定
					ノンアルコール、微アルコールや低アルコール製品に対する取組み強化	SB	2026年	・お客様の多様なニーズに応えるため、ノンアルコール、微アルコールや低アルコール製品において、選択肢を拡大していくことを目指す	【2025年上期実績】 2025年既存アイテム拡大に向けた取り組みを実施中
						SLN			【2025年上期実績】 「飲み放題」メニュー選択者のアルコール摂取量調査を実施
					適正飲酒セミナーの満足度	SB	2027年	・お客様に適正な飲酒の情報を提供し、啓発活動を進めることで、アルコールの有害な摂取を防ぎ、社会に貢献する ※セミナー後の満足度アンケート（５段階評価）にて2027年までに4以上	【2025年上期実績】 2025年上期累計セミナー満足度（５段階評価）スコア4.38
					・飲食店におけるアルコールの誤飲発生件数	SLN		・0件	【2025年上期実績】 ・毎月15日を「誤飲防止の日」として社内注意喚起を継続。 ・2025年2月、誤飲事故1件発生
					・飲食店メニュー・POP類へ20歳未満飲酒防止メッセージの表示率	SLN		・100%	【2025年上期実績】 ・飲食店メニュー・POP類へ20歳未満飲酒防止メッセージの表示率100%
					人材の活躍	●	多様な人材の活躍	・ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン(DE&I)の推進	
SBL	・DE&I研修を受けた従業員の割合 100%	【2025年上期時点】 受講従業員の割合：82%							
・多様な価値観、新しい働き方に合わせた制度・環境の整備状況	SVL		・コンシャス・インクルージョン研修を受講した雇用リーダーの割合：100%	【2025年上期時点】 受講リーダー割合：84%					
			・DE&I理解度 6.0点(※)	【2024年実績】 6.13点					
			・経営陣の中のローカル社員人数 2名	【2025年実績】 経営人材研修を7月・8月に実施。 7月実績：マネジャー職参加の割合：100%					
	PK		・組織文化調査 6.00点(※) ※SVL社実施の「組織文化調査」による指標（7点満点中）。	【2024年実績】 ・6.2点					
			・エンゲージメント(※) 80% ※PK社実施の「従業員調査」による指標（ベンチマーク76%）。	【2025年上期実績】 77.0%					
・女性活躍推進の進捗状況	SH,SB,PS,SRE,SLN	2026年	・女性取締役比率12%以上、女性管理職比率12%以上	【2025年実績】 5社合計 2025年6月末現在 女性取締役比率17.2%（SH単体18.2%） 女性管理職比率 8.1%					
	SH	2030年	・女性取締役比率30%以上						
	SH,SB,PS,SRE,SLN		・女性管理職比率20%以上						
・成長と生産性向上に向けた人間的資本投資	・未来価値創造に向けた挑戦的な風土醸成の進捗度合い	SH,SB,PS,SRE,SLN	2026年	・統合調査「未来価値創造に向けた挑戦」(※)3.0以上 ※ストレスチェック・従業員意識調査によるサッポログループ独自の調査指標＜1.0～4.0で数値化＞。				【2025年調査結果】 2.7	
	・積極投資による人材育成（経営人材／グローバル中核人材／DX・IT基幹人材）の進捗状況	SH,SB,PS,SRE,SLN	2026年	・経営人材後継者の充足				【2025年実績】 事業会社にて経営者育成会議、全社での経営人材連絡会議を実施し、計画的に経営人材の育成を推進。	
				・グローバル中核人材100名 ・DX・IT基幹人材200名				【2025年実績】 ・グローバル中核人材:常時100名以上ブールしている。 【2025年実績】 ・DX・IT基幹人材:200名の育成完了。	
	・心身の健康の良化による生産性向上の度合い	SH,SB,PS,SRE,SLN	2026年	・プレゼンティーズム損失率(※) 33.4%以下 ※ストレスチェック・従業員意識調査による指標				【2025年調査結果】 プレゼンティーズム損失率 33.5% ※SH＋4 事業会社	

持続可能なサプライチェーン構築	・サプライチェーンにおける人権尊重 ・サプライチェーンにおける環境負荷低減 ・安定調達	・サステナビリティ調達ガイドラインの遵守率	SB,SBL,SAS,SVL,PS ,PK,YSM,FBS,SLN		・「調達基本方針」及び「サステナビリティ調達ガイドライン」の働きかけ及び浸透策の実施。	【2025年上期実績】 ・主要調達先に対し、「調達基本方針」および「サステナビリティ調達ガイドライン」の理解浸透を目的とした取り組みを推進。 ・人権・環境への意識共有を図り、同意書取得を順次進めている。
			SB,PS		・主要調達先のサステナビリティ調達ガイドライン 遵守率100%	【2024年実績】 遵守率100%
		・森林破壊を防止したサプライチェーン構築の確認状況	サッポログループ		・高リスク品目 ⁽¹⁾⁽²⁾ について森林破壊のない調達になっていることの確認できるスキーム ⁽²⁾ の確立・実行 (1)牛肉、パーム油、大豆、ココア、木材・木質繊維 (2)サプライヤーに対する当社方針の説明、アンケート等を通じた当社の有無の確認と確認の	【2025年上期実績】 ・サステナビリティ調達アンケートを改訂し、森林破壊防止に関する設問を追加し、アンケートを通じて方針有無や取組み確認中。 ・優先取組み品目（牛肉、パーム油）の対象サプライヤーを特定。
		・人権DDプロセスの進行状況	SB,SBL,SAS,SVL,PS ,PK,YSM,FBS,SLN		・サプライチェーンの人権尊重を確認できるスキーム ⁽³⁾ の確立・実行。 （主要原料と高リスク原料から優先実施） ※①各原料に関するサプライチェーンの一覧化 ②アンケート等による日常活動確認	【2025年上期実績】 ・サプライチェーンの可視化に向けて取組み中。 ・グループ各社にてサステナビリティ調達アンケート実施中。
			SB,PS	2025年	・主要原料および高リスク原料について、人権尊重された調達になっていることの確認を実施	【2025年上期実績】 ・2次サプライヤー以降の可視化：取組み中 ・Sedex活用による評価是正スキームを確立し運用開始。
安全な製品・施設の提供	・食品安全	・食品安全保証体制の運用、継続的改善 ・重篤な食品事故の発生件数	SB,SBL,SAS,SVL,PS ,PK,FBS,SLN		・食品安全保証体制への、お客様をはじめとしたステークホルダー（社内を含む）の声の反映。 ・重篤な食品事故の発生抑制	【2025年上期実績】 ＜食品安全保証体制へのステークホルダーの声の反映事例＞ ・SB社：シンプルでよりわかりやすくすること、およびサッポログループの海外展開を踏まえてサッポログループ品質保証体系を見直し、再構築。 ・SLN社：お客様が食べ残した料理を持ち帰りたいというニーズに応え、ルールを整備して運用を開始、フードロス削減への取り組みを実施。 ・PS社：清涼飲料水「クリアタンサン」のラベルで「便利な目盛り入り」という文字で一部メモリが隠れていた部分をお客様の声により改善。 ＜重篤な食品事故＞ 重篤な食品事故は発生していない。
	・安全な施設づくり	・施設安全への取組み状況	SRE		・保有物件における適切な非常用電源の確保 ・保有物件における耐震性能の確実な確保 ・有事対応計画に関する定期的な見直しと訓練の遂行	【2025年上期実績】 計画通り実施